

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 31日

公表:令和 8年 4月 7日

事業所名 児童発達支援室さらら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	専門的支援は2階で個別にでき、子どもも2階に行く事を楽しみにしている。	その子その子に合わせた活動内容を取り入れ、環境をせていしていく。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	今年度から専門的支援もできるよう配置した	今後を見据え、児童発達支援管理責任者を2名体制にし、人材育成にも努めている
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	絵や写真を掲示し、朝の仕度やおもちゃなど視覚的にわかりやすくなるよう工夫している。	空き家を利用しているため、不便な所もまだある。バリアフリーにはなっていないが子ども達にとって安全に過ごせるよう整備はしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	子ども達と雑巾がけを通し一緒にきれいな環境を整える事、体幹を鍛えることもしている。	5Sチェック表を作成し、毎日確認している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0		職員で読み合わせし、要望には答えていけるよう改善を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0		毎年掲載している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		法人内で行う場合には準じていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0		外部研修にも積極的に参加し、新しい知識を取り入れて行けるよう心掛けている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	保護者、担当、児発管で懇談会をすることで、家庭と事業所と一体となって取り組める計画を心がけている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	全ての項目を取り入れ、なおかつ、事業所として大切にしたい項目も独自で考え作成している。	本人支援の5項目に関しては、重なる部分もあるので、項目を足したり、重複させながら、今この子にとって必要なことは何かをしっかりと見極めるようにしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	毎月振り返りをする事で意識できている。	毎月行っていたが、すぐに変化は出ないので、3か月に1回にしていこう。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	職員全員で取り組んでいる	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0		専門的支援が加わったことで、更に個別活動が増え、丁寧にかかわる時間が増えた。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	打ち合わせできていない時もあった。	終礼で打ち合わせをしたことを、再度当日に記録を確認していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	パートで帰る時間が早いため、終礼に参加できていない。	終礼記録や議事録をいつでもチェックできるようにしておく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	毎日子どもの記録を保護者に渡すようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	振り返りを書くことで、見直しも含め検討して行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	担当と児発管で参加している	今の子どもの様子を知ってもらう為、写真入りの書面で様子を伝えられる様に用意している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	相談センターからの紹介で見学に来られる場合もある。	事業所で受け入れ出来ない場合は相談センターを紹介している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	引き継ぎ書を作成している。	退所する子よりも、併用してその後も通い続ける子どもが多いので、その後も連携し、情報共有を心がけている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	引き継ぎ書を作成している。	学校へは保護者から渡してもらう事が多い。また、教育委員会からの就学に向けた取り組みにはしっかりと対応できるようにしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	事業所共有会議に参加し、情報共有を心がけている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	併用している子ども達が多いため、事業所の活動としては設けていない。	次のステップとして保育園等の集団に入って行く子どもに対しては、同じ法人内の保育園へ出向き、一緒に活動させてもらう事もある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4	事業所共有会議に参加し、情報共有を心がけている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	連絡帳、送り迎えの時に様子を伝えあうようにしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	0	家族支援として、療育をしている	家では見られない姿に保護者からはおおむね好評を得ている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	随時受付している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	保護者同士の連携までつながっているかは不明。	おしゃべり会、親子遊び会など開催している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	対応できるよう心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月おたよりを発行している	給食の写真や、おたよりをいつでもスマホで見られる様、LINE-WORKSを活用している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	その子その子に合わせた方法を心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	散歩先での挨拶等	招待することはできていない。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	避難訓練に引渡し訓練も含め行っている。	併用している子も多いため、年に2回引渡し訓練を行い、全員ができるだけ参加してもらえるよう計画している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	記録を取るようにしている。	ヒヤリハット報告書を基に研修も行っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	計画を立て行っている。	外部研修にも積極的に参加し、新しい知識を取り入れて行けるよう心掛けている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0		保護者としっかり話し合うようにし、記録を付けている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。